

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 1階		
所在地	北海道函館市栄町16番地16号		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	平成22年8月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171400682&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットになっており、職員の数も多く、協力し合っています。 また、当法人はグループホームが他に3箇所とクリニック、老健施設、包括支援センターがあり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質の高い向上に努める姿勢があります。 また、独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境づくりに心掛けています。 年に1度利用者様・ご家族様アンケートを実施し、結果を集計して改善点を見出し、ご家族様の意見や要望に応える取り組みを行っている。町会主催の夏祭りや地域の清掃活動に入居者様と参加し、地域との交流を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造り5階建て、5ユニットのグループホームで開設当初よりスプリングラが設置されています。また、年に1度「利用者・家族アンケート」を独自に実施し、結果を集計し、意見や要望、苦情等の改善策を話し合い、その結果を家族に報告し、サービスの向上に活かす取り組みが行われています。職員の研修意欲も高く、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得に取り組んだり、グループホーム連絡協議会の外部研修参加や法人内の身体拘束廃止等の研修会も行われています。町内会主催の夏祭りや盆踊り、地域の清掃活動に参加したり、小学校の生徒との交流を通じて認知症について理解される取り組みをしています。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での「共生(共に生きる)」を念頭に地域での催し物への参加、事業所内での催し物(運営推進会議等)へのご案内を通じて相互の交流を深めるべく努めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、理念を共有している。また、理念達成の為にユニット毎の目標を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物や小学校での行事への参加・見学を通じて地域との交流を深めている。また、馴染みのお店での買い物など希望に応じた対応に努めている。事業所としては、地域の清掃活動などに参加している。	町内会の祭りや盆踊り等の行事参加や小学校児童との交流を通じて地域の人達とのつながりに努めている。また、馴染みの美容室の利用や商店での買い物等できるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報紙を通じて、グループホームの運営や認知症などの情報の発信に努めている。個別には、町内の清掃活動や花植えを通じて地域に根ざした活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、サービス等の現状について報告させて頂いている。その場で寄せられた意見や要望、提案は議事録を通じて職員間で共有されており、即応できるように努めている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的に開催され、火災時の避難誘導や関係機関への通報等具体的計画について話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議へのご案内・参加を通じて、事業所の実情等について説明させて頂いている。また、事業所の運営や手続き等についても適宜問い合わせ、ご指導を頂いている。	市担当者や包括支援センターとは、運営推進会議や日常業務を通じて情報交換や助言を得ながら連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に周知徹底・指導を行っている。施錠についても、防犯上必要な夜間(20時以降)を除き玄関には施錠していない。職員は、自らの何気ない言行で入居者様の行動を制約しないよう注意している。	身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションや事業所内での勉強会などを通じて職員への周知徹底に努めている。職員は、基礎的な知識を背景に想像力と洞察力を見につけ虐待を看過することのない様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に行政書士を招き、入居者様・御家族様、および職員に向けた、成年後見人制度の説明を実施した事がある。現在、当該制度を利用している方はいませんが、今後は職員も基本的な説明が出来るように勉強会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居窓口担当者を中心に、入居前から十分な説明を繰り返し、契約内容や重要説明事項などを分かりやすく説明している。また、その家族にかかわりが強い部分は更に重点的に説明を重ねてトラブルを作らないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日々の暮らしで困っている事・御家族様の面会・定期的な電話・運営推進会議(2ヶ月に一度)で出た内容は、改善できる内容なのか、経営者を含め、検討し、改善出来る事は、現在何処まで改善出来ているのかなど、毎月送る請求の封筒にお便りなどで同封させていただいている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口等掲示している。また、ホーム独自の家族アンケートを実施して、意見や苦情等の是正策を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議を中心に、一人ひとりが意見を述べるるるに、会議を進めている。皆が納得した検討内容、安全な範囲での提案は、すぐに取り入れ、経過観察しながら、モニタリングを行い、さらなる検討へ繋げている。管理者は代表者と連絡が取れる体制になっており、可能な範囲で対応して頂いている。	毎月開催するスタッフ会議で、職員の意見や要望、提案を運営に反映する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度、職員一人ひとりの勤務年数・勤怠状況・仕事に関する免許取得など、総合的な判断材料を基に、給与に反映させて頂いている。物品購入や破損状況はその都度、報告し改修も行なわれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人オリエンテーションのほか、必要に応じた様々な研修をユニット毎に随時行い、職員の育成に努めている。法人外の研修についても広く職員への告知を行い、希望者を募ることで研修を受けるための機会の均等を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を中心とした集まりで、勉強会や講演会を行っており、日々のサービス向上へと生かすことができるように努めている。なお、そうした場で得られた情報は、各種委員会や管理者を通じた伝達のほか、インターネットシステムにより職員全般への共有が図られている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活するに当たって本人が困っている事や不安な事を初期の段階から常に職員間で把握する様に努め、また早急に解決出来る様、スタッフ会議を通じて検討し安心して過ごして頂ける様、努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に御家族から不安事・心配事を必ず聞き職員間で把握し、安心して利用して頂ける様、スタッフ会議にて検討を行い改善に向け取り組んでいる。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの作成において、本人・家族が必要としている支援を必ず第一のサービス内容とし、他のサービスにおいても必要な事は全てプランに乗せ全職員にて統一したサービスの提供を行っている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームの理念にもあるが、利用者様を人生の先輩として尊重し、様々な生活の場面を通じ、知識・知恵を学ぶ事を忘れず、また共に過ごし共に笑い共に悲しむ気持ちを大切に日々、努めている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室や食堂等、希望された空間で穏やかに過ごして頂ける様、配慮している。また本人と御家族が疎遠とならない様、遠方の御家族へは管理者より、手紙・電話連絡を行い近況の報告を行っている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や昔馴染みの知人との関係が途切れない様、特に面会等には制限せず、気促に訪れて頂いている。	馴染みの美容室訪問や商店の利用で関係が途切れないように支援している。また、地域の盆踊りやお祭り参加等を通じて地元の人々との交流に努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際やお茶の時は、利用者様同士の関係を配慮した席になっており、話しやすい環境作りを行っている。また利用者同士で食器拭き・掃き掃除をされる場面も見られる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御本人やご家族が希望される範囲内で相談等に応じており、必要に応じたフォローを心掛けている。他のサービスを利用される場合も、違和感なく移行出来る様に連携を図っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを把握し、職員が共有することで意向に添うべく努めている。思いが把握しにくい場合でも、御家族の意見等を加味し、ご本人の意向に沿えるよう努めている。	フェイスシートや一部センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートへの記載や日々の生活の中での会話などを通じて把握出来る様心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス会議を定期的に行い、入居者様の現状について多面的に考察、把握出来る様努めている。また、日々の暮らしを通じて出来る事出来ない事の見極めに努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議を定期的に行い、ニーズや目標（短期・長期）、現状に即したケアのあり方について話し合い、その結果に基づき介護計画が作成されている。医療関係者等にも適宜意見やアドバイスを頂いている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するように努めている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個々のケアへの気づきや工夫などについては、申し送りや社内ネットワークを通じて情報を共有し、実践している。得られた情報は介護計画の見直しにも役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部の事業者を活用しながら、理美容やリハビリテーションなど個々の入居者様のニーズにお答えできるよう努めている。買い物や外出も行きたいときにに行ける様努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の活動（花植えや夏祭り等）を中心に、ご本人の出来る範囲で参加して頂いている。また、地域の小中学校の訪問を受けたり、行事（学芸会等）に招待されることもある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続的に安心して利用できるよう特に制限を設けずに対応させて頂いている。職員は、かかりつけ医との良好な関係を維持すべく必要に応じた支援を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、内科医、歯科医等の往診で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回医療連携看護師の訪問を受け、情報交換を行うと共にアドバイスを受けケアに生かしている。また、医療連携体制を整備しており24時間体制で入居者の異変時等の相談に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、互いの情報を共有し合い、情報交換に努めている。また、入院時には、早期退院を目指しており、得られた情報を元に不安なく帰設できるよう万全の体制を整えるべく努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取り」について説明を行っている。また、そうした場合に備えて出来るだけ早期に主治医やご家族、医療連携看護師等と話し合う機会を設け、情報を共有することで希望に沿った支援を行える様にしている。	看取りの指針に基づき本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各階で勉強会を行い、職員の知識向上を図っている(特に、緊急時の対応については、各ユニットとの連携を含めて実施)。また、マニュアルを整備している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上避難訓練を行い職員が災害時に備えた心構えと実践を通じた避難誘導の技量向上に努めている。地域との協力体制については、検討課題である。	開設当初よりスプリンクラーを完備している。また、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、運営推進会議で委員との話し合いや助言を得ている。	緊急時の具体的な避難誘導方法やスプリンクラー作動時の対処方法等さらに検討されることを期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、人権を尊重した言葉使いを心掛け、職員同士注意できるような環境の整備に努めている。	身体拘束廃止委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えやお茶の際など、ご本人の好きなものを選んで頂くことで、満足して頂くことができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者様の希望や思いを最優先に職員は対応させて頂いている。急な外出にも極力対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に着替えを準備して頂くなど好みに応じたおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように食べたい物を伺ったり旬の食材を活用する等して、入居者様個々の希望を考慮している。また、材料の仕込みや後片付け等をお手伝いして頂いている。	食事が楽しみなものになるように、利用者の意向を把握してメニューが作られている。また、材料の調理や食事の準備、後片付け等職員と一緒にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者様について健康管理表などを活用し、食事量や水分量を把握している。その上で個別に対応しながらバランス良く食べたり飲んだりして頂ける様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りを行っており、必要に応じてお手伝いをさせて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者様の排泄のリズムや、パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄できる様にお手伝いをさせて頂いている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表等を通じてスタッフ間で情報の交換を行い、早期対応に努めている。また、単純に服薬に頼るのではなく乳製品の摂取を進めるなど、自然な排泄ができる様努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関して決まり事は設けていない。個々の入居者様が希望された時に入浴できるように都度対応させて頂いている。なお、入浴を好まない方についても柔軟な声掛けにより対応させて頂いている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、入浴を望まない利用者にも柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、希望に沿うように支援している。また、眠れない時には温かい飲み物を勧めるなど、安眠できるような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状等を通じて入居者様が服用されているお薬の作用、副作用の把握に努めている。処方通りの服用は勿論のこと、服用時には目視にて飲み込みまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者様の趣味活動や可能な家事作業について他の入居者様を交えながら一緒に行っている。気分転換に関しても、ドライブなどを中心に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブ等、その他地域の行事にも積極的に参加し外出の機会が持てるように努めている。地域の方との交流を深める為にも小学校の行事の参加、町会のお手伝い等に積極的に参加している。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物、お祭り見物やドライブ等戸外に多く出かけられるように支援している。また、馴染みの美容室の利用や商店での買い物ができるように支援している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方は自己管理して頂いている。管理が難しい方についても、管理者の管理のもと、ご本人の意思を尊重しながら支払いを行って頂く等の対応している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の発受を自由に行って頂いている。また、手紙等は基本的にご本人にその場でお渡ししており、投函は職員が代行する等状況に応じて対応している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じて、照明やカーテンを活用して調光したり、窓を開放して換気をしたりしながら少しでも暮らしやすい環境が作れるように配慮している。また、お写真を掲示したり敢えて日めくりカレンダーを設置することで季節の移ろいを感じて頂ける様に努めている。	廊下、リビング等の共用空間は広く、思い思いに過ごせるようにソファや椅子、テーブルの配置を工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールには椅子やソファが配置されており、個々の入居者様はお好きな場所で、談話をされたり、雑誌を読まれたりと思い思いに過ごされている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前にご本人やご家族に実際に居室を見て頂く機会を設けている。また、入居に当たっては極力使い慣れたものをお持ち頂く様にお願いしており、住み慣れた住まいの延長線として、安心して暮らせるよう配慮している。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの他、各所に手すりが設けられており、つかまり歩きが出来る様に配慮されている。また、分かりにくい場所には見えやすい位置に案内を貼る等して対応している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 2階		
所在地	北海道函館市栄町16番地16号		
自己評価作成日	平成22年6月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。	
基本情報リンク先URL	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットになっており、職員の人数も多く、協力し合っています。 また、当法人はグループホームが他に3箇所とクリニック、老健施設、包括支援センターがあり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質の高い向上に努める姿勢があります。 また、独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境づくりに心掛けています。 年に1度利用者様・ご家族様アンケートを実施し、結果を集計して改善点を見出し、ご家族様の意見や要望に答える取り組みを行っている。町会主催の夏祭りや地域の清掃活動に入居者様と参加し、地域との交流を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に司会者が復唱して日々日常の中で理念を忘れずケアに努める様心掛けています。また、各階にも掲示してある。新規採用時、オリエンションの際に説明して統一したケアを提供できる様にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会主催の行事(夏祭りや餅つき等)参加以外にも月1回以上回覧板を回したりゴミ拾いに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議で議題として取り上げ、認知症という病気のことから介助の仕方等細かなことまで説明・参加して頂いた方に実践して頂き、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度では成年後見人制度や食事の試食等会行っている。特に試食会は好評で5ユニット全ての試食を行い関心を得られた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	勤務体制等必要事項については連携を取ったりしているが、それ以外については実地指導等定期的なもの以外連携は取れていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会にて会議を設けており身体拘束廃止に取り組んでいる。又その場で事例検討を各施設持ち寄って話し合い活かしているが当施設では夜間は防犯の為、玄関に施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて身体拘束及び虐待防止について話し合われる場を設けている。各ユニット1名所属しており会議後、ユニットに持ち帰り再度話し合われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度では運営推進会議において成年後見人制度について御家族様と一緒に学ぶ機会を設けましたが、現在希望者は特になく状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際は管理者及び入退居担当者にて当施設のコスト面や生活の中での質疑応答をさせて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、質問や意見は該当階もしくは苦情処理窓口を設け活かされている。また、年1回ご家族様へアンケートの実施・公表を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上、各ユニットでスタッフ会議を設けているが、それ以外にも随時話を聞いたり、インターネットシステムにて伝言を残して頂き意見・要望を伝えている。更にその案件を管理者会議にて議題として取り上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所属する管理者よりその職員のやる気や能力・勤怠面にて代表者に賃金面を提案させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は各管理者に任されており、管理者研修や実践者研修は研修を受ける予定の職員の履歴書や能力等、代表者へ提案・受理して頂く体制となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に代表者は関わっていないが連絡協議会の中で同業者との交流機会や事例検討等行われている。相互訪問の件も連絡協議会で一度話し合われたが行われていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご自宅もしくは入所されている施設に赴き御本人様の意見や不安を聞かせて頂いている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入所前に御自宅もしくは当施設にて話し合える場を設けさせて頂いている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に入退居担当者及び該当階管理者もしくは計画作成担当者と御本人様・御家族様で話し合える場を設けさせて頂き、他のサービスの話や今後の方向性について話し合せて頂いている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス提供者という事を忘れず擬似家族という面で共に生活させて頂き、同じ時間を過ごさせて頂いている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ施設任せという御家族様もいるが、共に病院受診や行事への参加を促させて頂き共に時間を過ごして頂ける様心掛けしている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や美容室、昔からの友人・知人等との関係が切れない様、職員側で勝手に決めず入居者様・御家族様と話し合いながら共に決めさせて頂いている。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりがちな入居者様もいるのでその人の意志を尊重しつつ孤立せぬようサービス提供させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、退居後に相談や支援を求められた事はなく、個人的に面会等行っているだけである。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様・御家族様の希望をまず入所時に聞き、その都度意思を尊重しつつ生活して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に必ず入退居担当者と御家族・御本人を交え情報提供して頂き、当施設での生活に役立たせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、何か状態変化や有する力を発見した際、インターネットシステムを利用し職員間で情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低年1回や大きく状態の変化があった際等ご本人様の生活に関係のある方、全て召集させて頂き会議の場を設けさせて頂き、そこでの情報を基に職員間で話し合い介護計画書を作成・提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの結果を個別記録に記入し、又インターネットシステムを有効に使い職員間の情報共有に努めている。それを基にカンファレンス・モニタリングに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や希望があった際はその都度、カンファレンスを行い新たな介護計画を作成・実践・評価している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暖かい時期などには施設前の海沿いを共に散歩したり、町会主催の花植え等に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員側で勝手に病院を決めず昔から掛かっている医療機関を利用させて頂いている。又、体調変化により他の病院に掛からざるを得ない場合でも御家族様に相談し以前掛かっていたような機関があればそちらを優先させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	有事の際や身体の異常・様子の変化に気付いた際、状態の程度により管理者もしくは医療連携看護師に連絡・相談・助言を行っている。またいつ何時状態変化が起こるかわからない為医療連携看護師とは24時間連絡が取れるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は担当医もしくは担当看護師と情報交換を行い御家族様を交え今後の方向性について話す場を設けさせて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様・御家族様よりターミナルケアを希望された際、主治医・医療連携看護師・御本人様・御家族様を交え今後の方向性について話し合いをする場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に有事の際の対応策を勉強会や申し送り時等に各ユニットで話し合い適切な判断・対応が出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練については年2回行なっている。又、災害によって避難場所が違う為、熟知して頂ける様に心掛けている。地域との協力体制については回覧板での理解や避難訓練への参加を今後も促し理解して頂く様にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人の性格や羞恥心に配慮しつつ声掛けやサービス提供を行っており、御本人様の意思を最優先にケアさせて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食事の内容、入浴とあらゆる場面で職員側で勝手に決めず自己決定して頂ける様声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ユニットでは自己決定・自己主張される入居者様は少ないが職員側から声掛け等行いその都度何を行うか決めて頂ける様に生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容面においては全て、声掛け→手渡し→一部介助と段階を踏まえサービス提供させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様・職員共に同じ物を食べ、味付けや季節の食材についてお話をさせて頂きながら食事の席に着いている。準備や後片付けは共に行わせて頂いているが特定の人に限られてしまう傾向がある。		
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携看護師に相談しながら食事・水分量の把握・調整を行っているが、栄養バランスについては栄養士による調整ではなく素人レベルの知識での調整である。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御本人様の意思を尊重しつつ口腔ケアの声掛け・一部介助をさせて頂いている。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレにお誘いし、トイレで排泄して頂ける様、記録等を用いて排泄リズムの把握、更に御家族様へのコスト削減に努めさせて頂いている。		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物での工夫は入居者様方の嗜好に配慮しつつ食物繊維の多い食材を取り入れるよう心掛けている。運動面でも御本人様の意志により出来ていない状態であり服薬に頼らざるを得ない状態である。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	随時声掛けをさせて頂き御本人様の希望を聞かせて頂いてから入浴の準備に取り掛かっている。		
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその都度の様子や希望を尊重しつつ声掛けさせて頂き休息されている。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを使用し処方されている薬の用法・用量・効果の把握に努めている。症状変化についてはスタッフ会議やインターネットシステムを利用し情報共有に努めている。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前から随時、情報提供・共有に努めその人らしい生活が送れる様サービス提供させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、入居者様から希望が聞かれた場合、職員間で協力し合い外出している。		
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様で管理できる人は管理して頂き、困難な場合は管理者で管理させて頂いている。毎月御家族様へ金銭の使用用途を帳簿・領収書で報告させて頂いている。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事の写真等を郵送する職員間での希望はあるが実現は出来ていない。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節ごとの模様替えを行ったりして味わって頂いている。又、照明や物の配置に気を配り落ち着いて生活して頂ける様気配り・心配りをしている。		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や一人用椅子を各所に設置したり、ホール奥に畳のスペースがありそこで横になったりテレビを見たりと自由に過ごして頂いている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にタンスやテーブル等、馴染みの物の使用を御本人様・御家族様に承諾して頂き、昔から過ごしていた同ような空間作りに活かしている。		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設はバリアフリー・手すりが完備されており、できる限り自立した生活が送られる様整えられている。又、新聞等出来る限り同じ場に同じ物を置き自立支援に利用させて頂いている。		